

PRI 報告フレームワーク

インフラストラクチャー

2025

本資料は日本語参考訳です。英語の PRI REPORTING FRAMEWORK も併せてご確認ください。
日本語版と英語版で相違が生じている場合には、英語版の内容が優先します。

本資料は情報提供のみを目的としています。従って、投資、法律、税務、その他いかなる形式の助言も意図しておらず、投資その他の意思決定を行う際に依拠することを意図していません。すべてのコンテンツは、著者および発行者が助言を提供するものではないことを理解した上で提供されています。PRI アソシエーションは、参照される可能性のある Web サイトまたはその他の情報リソースのコンテンツについて責任を負わず、そこに含まれる情報を保証しません。PRI アソシエーションは、誤記や脱落、この文書に記載された情報に基づいて行われた決定や行動、またはそのような決定や行動に起因する損失や損害について責任を負いません。すべての情報は「現状」で提供され、完全性、正確性、適時性、またはこの情報の使用から得られる結果について、明示または黙示を問わず、いかなる保証も行いません。

著作権 © PRI Association Limited (2025). 無断複写・転載を禁じます。PRI アソシエーションの書面による事前の同意なしに、このコンテンツを複製したり、他の目的に使用したりすることはできません。

目次

ポリシー	5
投資ガイドライン[INF 1]	5
INF 1	5
資金調達	7
投資家へのコミットメント[INF 2]	7
INF 2	7
投資前	9
重要課題(マテリアリティ)分析[INF 3、INF 3.1]	9
INF 3	9
INF 3.1	11
デュー・デリジェンス[INF 4、INF 5]	13
INF 4	13
INF 5	16
第三者事業者の選定、指名、モニタリング	19
第三者事業者の選定プロセス[INF 6]	19
INF 6	19
第三者事業者の指名プロセス[INF 7]	21

INF 7	21
第三者事業者のモニタリング・プロセス[INF 8]	24
INF 8	24
投資後	27
モニタリング[INF 9、INF 9.1、INF 10、INF 10.1、INF 11、INF 12、INF 13、INF 14、INF 14.1]	27
INF 9	27
INF 9.1	30
INF 10	32
INF 10.1	35
INF 11	36
INF 12	38
INF 13	39
INF 14.1	43
ステークホルダー・エンゲージメント[INF 15]	44
INF 15	44
エグジット[INF 16]	46
INF 16	46
ESG ポートフォリオ情報の開示[INF 17]	49
INF 17	49

ポリシー

投資ガイドライン[INF 1]

指標 ID	依存関係	OO 21、OO 29、OO 30	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 1	ゲートウェイ	該当なし	投資ガイドライン	1~6	コア

貴組織では現在、どのようなインフラストラクチャー固有の ESG ガイドラインを責任投資ポリシーの対象としていますか。

- ☐ (A) 投資対象の各インフラストラクチャー・セクターと地域に合わせた ESG アプローチに関するガイドライン
- ☐ (B) グリーンフィールド投資への ESG アプローチに関するガイドライン
- ☐ (C) ブラウンフィールド投資への ESG アプローチに関するガイドライン
- ☐ (D) 投資前スクリーニングに関するガイドライン
- ☐ (E) ESG の組み入れアプローチを短期プランまたは 100 日プラン(またはそれに相当するもの)に含めることに関するガイドライン
- ☐ (F) ESG の組み入れアプローチを長期的な価値創出の取り組みに含めることに関するガイドライン
- ☐ (G) ESG 報告のアプローチに関するガイドライン
- ☐ (H) 従業員関連のエンゲージメント・アプローチに関するガイドライン
- ☐ (I) 第三者事業者関連のエンゲージメント・アプローチに関するガイドライン
- ☐ (J) 請負業者関連のエンゲージメント・アプローチに関するガイドライン
- ☐ (K) その他外部のステークホルダー(例: 政府、地域コミュニティ、およびエンド・ユーザー)関連のエンゲージメント・アプローチに関するガイドライン
- ☐ (L) 責任投資ポリシーには、インフラストラクチャー固有の ESG ガイドラインは含まれない

説明		
指標の目的	本指標の目的は、署名機関の責任投資ポリシーにインフラストラクチャー資産に関する環境、社会およびガバナンス・ガイドラインが含まれるかどうかを判断することです。多くの投資家は、すべての資産クラスをカバーする ESG または責任投資ポリシーを組織レベルで定めています。すべての資産クラスを対象とするポリシーは、インフラストラクチャーへの適用に関する解釈に余地を残す可能性があります。これを、各インフラストラクチャー・セクターの具体的な ESG ガイドラインに適用し、インフラストラクチャー資産について組織の ESG アプローチ全体を適用することは優れた取り組みであり、インフラストラクチャーへの責任投資に関連する期待と実務の一致に寄与します。	
追加報告ガイダンス	組織のインフラストラクチャー投資に固有の ESG ガイドラインは、独立した文書またはポリシー文書の中に記載される場合があります。 「100 日プラン(またはそれに相当するもの)」は、投資家が投資初期の 100 日間で着手する必要がある活動リストを含む文書です。	
他のリソース	その他のガイダンスについては、 インフラストラクチャーへの責任投資に関する手引(Primer on Responsible Investment in Infrastructure) を参照してください。 責任投資ポリシーの作成方法に関するガイダンスについては、 責任投資の入門ガイド:ポリシー、ストラクチャーおよびプロセス(An introduction to responsible investment: policy, structure and process) を参照してください。	
ロジック		
依存関係	[OO 21]、[OO 29]、[OO 30]	
ゲートウェイ	該当なし	
評価		
評価基準	本指標全体で 100 ポイント。 A～G から 4 つ以上、 および H～K から 2 つ以上選択した場合は 100 ポイント。ただし、A が選択されていることが 必須 。 A～G から 3 つ以上、 および H～K から 1 つ以上選択した場合は 75 ポイント。ただし、A が選択されていることが 必須 。 A～G から 1 つ以上、 および H～K から 2 つ以上選択した場合は 50 ポイント。ただし、A が選択されていることが 必須 。 A～G から 2 つ以上選択した場合は 50 ポイント(または H～K から 2 つ以上選択した場合は 50 ポイント)。 ただし、A が選択されていることが 必須 。 A の場合(または B～G から 1 つ以上 および H～K から 1 つ以上選択した場合は)は 25 ポイント。 B～G から 1～4 つ以上選択した場合、 または H～K から 1 つ選択した場合は 0 ポイント。 L の場合は 0 ポイント。	その他の詳細: 「L」を選択すると、本指標は 0/100 ポイントになります。 評価は、回答オプションの最も高いスコアの組み合わせに基づいて行われます。
乗数	High(高)	

資金調達

投資家へのコミットメント[INF 2]

指標 ID	依存関係	OO 21	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 2	ゲートウェイ	該当なし	投資家へのコミットメント	1、4	コア

報告年度中に組成したすべてのファンドについて、**リミテッド・パートナーシップ契約(LPA)**、補足文書、またはその他のファンドの構成文書においてどのような種類の正式な責任投資コミットメントをしましたか。

この報告年度中に組成したファンドがない場合は、最長 5 年前まで、ファンドを組成した最後の報告年度を参照してください。

- ☐ (A) 標準的な既定の手続きとして、責任投資コミットメントを LPA(またはそれに相当するもの)に組み入れた
- ☐ (B) 顧客の要請に応じて、責任投資コミットメントを LPA(またはそれに相当するもの)に追加した
- ☐ (C) 顧客の要請に応じて、責任投資コミットメントを補足文書に追加した
- ☐ (D) 該当報告年度において、正式な責任投資コミットメントを行わなかった
- ☐ (E) 過去 5 年間資金調達をしていないため、該当しない

説明	
指標の目的	本指標の目的は、ゼネラル・パートナー(GP)が ESG と責任投資(RI)コミットメントをファンド・レベルの法的文書に組み入れるかどうか、およびその時期について理解することです。LPA、補足文書、またはその他のファンドの構成文書において、正式に責任投資へのコミットメントを表明することは、優れた取り組みであると考えられます。
追加報告ガイダンス	本指標は、ファンド構造から投資する GP にのみ適用されます。 署名機関は、LP の要請によって LPA、補足文書、および／またはその他のファンドの構成文書に含まれた、または GP が自ら含めた、責任投資の実施に関連する正式なコミットメント、および ESG 問題の検討事項について報告してください。

	報告年度中に組成したファンドがない場合は、ファンドを組成した最後の報告年度(最長で 5 年前まで)を参照してください。	
他のリソース	その他のガイダンスについては、 責任投資要件のプライベート・エクイティ・ファンド条件への組み入れ (Incorporating responsible investment requirements into private equity fund terms)を参照してください。	
ロジック		
依存関係	[OO 21]	
ゲートウェイ	該当なし	
評価		
評価基準	本指標全体で 100 ポイント。 A の場合は 100 ポイント。 B の場合は 66 ポイント。 C の場合は 33 ポイント。 D の場合は 0 ポイント。	その他の詳細: 「D」を選択すると、本指標は 0/100 ポイントになります。 「E」を選択すると、本指標のスコアは「該当なし」となります。 署名機関は、本指標のために減点されることはありません。
乗数	High(高)	

投資前

重要課題(マテリアリティ)分析[INF 3、INF 3.1]

指標 ID	依存関係	OO 21	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 3	ゲートウェイ	INF 3.1	重要課題(マテリアリティ)分析	1	コア

報告年度中に、潜在的なインフラストラクチャー投資に関する ESG 重要課題(マテリアリティ)分析をどのように実施しましたか。

署名機関が報告年度に潜在的なインフラストラクチャー投資を分析なかった場合は、潜在的なインフラストラクチャー投資を分析した直近の報告年度を参照してください。

○ (A) ケースごとに状況が異なるため、資産レベルで ESG 重要課題(マテリアリティ)を評価した	[ドロップダウン・リスト] (1)すべての潜在的なインフラストラクチャー投資が対象 (2)過半数の潜在的なインフラストラクチャー投資が対象 (3)一部の潜在的なインフラストラクチャー投資が対象
○ (B) 業界レベルと資産レベルを組み合わせで ESG 重要課題(マテリアリティ)分析を行った	[同上]
○ (C) 業界レベルのみで ESG 重要課題(マテリアリティ)を評価した	[同上]
○ (D) 潜在的なインフラストラクチャー投資について、ESG 重要課題(マテリアリティ)分析は行わなかった	

説明				
指標の目的	本指標の目的は、署名機関による重要性評価のレベルと質の記述を通じ、投資前の段階におけるデュー・デリジェンス・プロセスの標準的な要素として ESG 要因の重要課題（マテリアリティ）分析を署名機関がどのように実施しているかを特定することです。内部リソースまたは外部リソースのどちらを使用していても、資産レベルの重要課題（マテリアリティ）分析を行うことは、優れた取り組みであると考えられます。			
追加報告ガイダンス	署名機関は、ESG 重要課題（マテリアリティ）分析が適用された潜在的なインフラストラクチャー投資の比率を記載してください。			
他のリソース	重要課題（マテリアリティ）分析に関する情報は、 SASB を使用した PRI モニタリングの実施と、プライベート・エクイティのリソース開示 (Using SASB to implement PRI monitoring and disclosure resources for private equity) に関する PRI ブログの投稿を参照してください。			
ロジック				
依存関係	[OO 21]			
ゲートウェイ	[INF 3.1]			
評価				
評価基準	本指標の 100 ポイントを、英字項目 (50 ポイント) と対象範囲 (50 ポイント) の回答オプションに配分します。複数の英字回答を選択した場合、最高スコアの英字項目と対象範囲の組み合わせが指標スコアとして記録されます。			
	英字項目の回答オプション 50 ポイントの配点： A の場合は 50 ポイント。 B の場合は 33 ポイント。 C の場合は 16 ポイント。 D の場合は 0 ポイント。	および	対象範囲の回答オプション 50 ポイントの配点： すべて (1) の場合は 50 ポイント。 過半数 (2) の場合は 25 ポイント。 一部 (3) の場合は 12 ポイント。	その他の詳細： 「D」を選択すると、本指標と次の指標において 0/100 ポイントになります：INF 3.1
乗数	High(高)			

指標 ID	依存関係	INF 3	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 3.1	ゲートウェイ	該当なし	重要課題(マテリアリティ)分析	1	コア

報告年度中に、潜在的インフラストラクチャー投資の **ESG 重要課題(マテリアリティ)分析**で、どのツール、基準、データを使用しましたか。

署名機関が報告年度に潜在的なインフラストラクチャー投資を分析しなかった場合は、潜在的なインフラストラクチャー投資を分析した直近の報告年度を参照してください。

- ☐ (A) インフラストラクチャーの ESG 重要課題(マテリアリティ)分析において、GRI 基準を使用した
- ☐ (B) インフラストラクチャーの ESG 重要課題(マテリアリティ)分析において、SASB 基準を使用した
- ☐ (C) インフラストラクチャーの ESG 重要課題(マテリアリティ)分析において、国連による持続可能な開発目標(SDGs)を使用した
- ☐ (D) インフラストラクチャーの ESG 重要課題(マテリアリティ)分析において、GRESB 重要性評価(RC7)または類似の評価を使用した
- ☐ (E) インフラストラクチャーの ESG 重要課題(マテリアリティ)分析において、**IFC パフォーマンス・スタンダード**(または開発金融機関が使用する類似の基準)に詳述された**環境および社会的要因**を使用した
- ☐ (F) インフラストラクチャーの ESG 重要課題(マテリアリティ)分析において、TCFD 提言やその他の気候リスク分析ツールおよび／またはエクスポージャー分析ツール等の**気候**開示を使用した
- ☐ (G) インフラストラクチャーの ESG 重要課題(マテリアリティ)分析において、国連によるビジネスと人権に関する指導原則(UNGPs)を使用した
- ☐ (H) インフラストラクチャーの ESG 重要課題(マテリアリティ)分析において、地政学的およびマクロ経済学的な検討事項を使用した
- ☐ (I) インフラストラクチャーの ESG 重要課題(マテリアリティ)分析において、既存の所有者および／またはマネージャー(または新しいインフラストラクチャー資産のデベロッパー)に対する**エンゲージメントを行った**
- ☐ (J) その他
具体的に記入: _____ [自由記述(必須): スモール]

説明	
指標の目的	本指標の目的は、投資前段階のデュー・デリジェンス・プロセスの標準的な要素として(内部チェックリストまたは ESG ツールまたはスコアカードなどの一部として)ESG 要因の重要課題(マテリアリティ)分析を行うために署名機関が使用するツール、基準、またはデータを把握することです。この分析は、組織内のツールまたは方法論を使用して内部で行われることも、サービス・プロバイダーを介して外部で行われることもあります。徹底した ESG 重要課題(マテリアリティ)評価が確実に行われるよう、幅広いツールとリソースを使用することは、優れた取り組みであると考えられます。使用される具体的なツールとリソースは、潜在的な投資の特性によって異なる可能性があります(例えば、業界セクター、地理)。

追加報告ガイダンス	記載の各種基準へのリンク: ▪ グローバル・レポーティング・イニシアティブ (GRI) 基準 (Global Reporting Initiative (GRI) Standards) ▪ 価値報告財団 (サステナビリティ会計基準審議会 – SASB 基準) (Value Reporting Foundation (Sustainability Accounting Standards Board - SASB standards)) ▪ 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) (Task Force on Climate-related Financial Disclosures (TCFD)) ▪ グローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク (GRESB) マテリアリティ評価基準 (Global Real Estate Sustainability Benchmark (GRESB) Materiality Assessment) ▪ IFC パフォーマンス・スタンダード (IFC Performance Standards) ▪ エクエーター原則 (Equator Principles) ▪ 国連によるビジネスと人権に関する指導原則 (UN Guiding Principles on Business and Human Rights (UNGPs)) ▪ 国連による持続可能な開発目標 (SDGs) (UN Sustainable Development Goals (SDGs))
他のリソース	重要課題(マテリアリティ)分析に関する情報は、 SASB を使用した PRI モニタリングの実施と、プライベート・エクイティのリソース開示 (Using SASB to implement PRI monitoring and disclosure resources for private equity) に関する PRI ブログの投稿を参照してください。
ロジック	
依存関係	[INF 3]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価基準	本指標全体で 100 ポイント。 A～I から 4 つ以上選択した場合は 100 ポイント。 A～I から 3 つ選択した場合は 75 ポイント。 A～I から 2 つ選択した場合は 50 ポイント。 A～I から 1 つ選択した場合は 25 ポイント。 J の場合は 0 ポイント。
「その他」の採点	「その他(J)」を選んだ場合、回答オプションが優れた取り組みに該当すると判断されれば、採点基準の対象とはなりません。
乗数	Moderate (中)

デュー・デリジェンス[INF 4、INF 5]

指標 ID	依存関係	OO 21	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 4	ゲートウェイ	該当なし	デュー・デリジェンス	1	コア
報告年度中に、重要な ESG 要因はインフラストラクチャー投資の選定にどのような影響を与えましたか。 署名機関が報告年度にインフラストラクチャー投資を選定しなかった場合、インフラストラクチャー投資を選定した直近の報告年度を参照してください。					
☐ (A) 重要な ESG 要因を使用してリスクが特定された			[ドロップダウン・リスト] (1) すべての潜在的なインフラストラクチャー投資が対象 (2) 過半数の潜在的なインフラストラクチャー投資が対象 (3) 一部の潜在的なインフラストラクチャー投資が対象		
☐ (B) 投資委員会 (またはそれに相当するもの) によって、重要な ESG 要因が検討された			[同上]		
☐ (C) 重要な ESG 要因を使用して、100 日プラン (またはそれに相当するもの) の是正措置が特定された			[同上]		
☐ (D) 重要な ESG 要因を使用して、価値創出の機会が特定された			[同上]		
☐ (E) 重要な ESG 要因により、軽減できないほど ESG リスク が高い場合に、デュー・デリジェンスの段階で潜在的な投資を断念する決定に影響が及ぼされた			[同上]		

☐ (F)重要な ESG 要因により、提示価格および／または支払い価格の観点から投資に影響が及ぼされた	[同上]
☐ (G)重要な ESG 要因はインフラストラクチャー投資の選定に影響を与えなかった	

説明	
指標の目的	本指標の目的は、組織が投資選定プロセスにおいて ESG 関連情報を含んでいるかどうかを理解し、実施した分析の度合いを確認することです。報告年度中のすべてのインフラストラクチャー投資選定の意思決定に重要な ESG 要因が組み入れることは、優れた取り組みであると考えられます。
追加報告ガイダンス	インフラストラクチャー投資選定とは、報告年度中に行われた新規のインフラストラクチャー投資を意味します。 「100 日プラン(またはそれに相当するもの)」は、投資家が投資初期の 100 日以内に着手する必要がある活動リストを含む文書です。 「デュー・デリジェンスの段階で潜在的な投資を断念する決定」は、デュー・デリジェンス段階中に問題が明らかになった後、潜在的な投資を放棄する決定を意味します。このプロセスは、除外リストを使用して潜在的な投資のスクリーニングをした後に完了します。
他のリソース	その他のガイダンスについては、 インフラストラクチャーへの責任投資に関する手引(Primer on Responsible Investment in Infrastructure) を参照してください。
ロジック	
依存関係	[OO 21]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価基準	本指標の 100 ポイントを、英字項目(50 ポイント)と対象範囲(50 ポイント)の回答オプションに配分します。最終スコアは、英字項目と番号が付された回答オプションの最も得点の高い 5 つの組み合わせに基づいて決定されます。

	英字項目の回答オプション 50 ポイントの配点： A～F から 5 つ以上選択した場合は 50 ポイント。ただし、F が選択されていることが必須。 A～F から 4 つ以上選択した場合は 33 ポイント。 A～F から 2～3 つ選択した場合は 16 ポイント。 A～F から 1 つ、または G を選択した場合は 0 ポイント。	および	対象範囲の回答オプション 50 ポイントの配点： A から F の回答選択につき、各オプションのポイント比率は以下のとおりです： すべて(1)の場合は 50/5 ポイント。 過半数(2)の場合は 25/5 ポイント。 一部(3)の場合は 12/5 ポイント。	その他の詳細： 「G」を選択すると、本指標は 0/100 ポイントになります。
乗数	High(高)			

指標 ID	依存関係	OO 21	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 5	ゲートウェイ	該当なし	デュー・デリジェンス	1	コア

重要な ESG 要因が特定された後、潜在的なインフラストラクチャー投資の当該要因に関する**デュー・デリジェンス**にはどのようなプロセスを使用していますか。

インフラストラクチャー投資で少数持分を持つ投資家は、重要な ESG 要因が可能な限り完全に特定および評価されるようにするために、協調投資の状況でエンゲージメントを行う資産、過半数の株主、および／または主要投資家に対してどのように影響を与えているかについて、オプションを選択してください。

☐ (A) 初期の危険信号を発見するために、ESG チェックリストを使用して、全体的なレビューまたはデスクトップ・レビューを実施している	[ドロップダウン・リスト] (1) すべての潜在的なインフラストラクチャー投資が対象 (2) 過半数の潜在的なインフラストラクチャー投資が対象 (3) 一部の潜在的なインフラストラクチャー投資が対象
☐ (B) 詳細な ESG アンケートをターゲットとするアセットに送付している	[同上]
☐ (C) 第三者コンサルタントを雇用して、特定の重要な ESG 要因に関するテクニカルなデュー・デリジェンスを行っている	[同上]
☐ (D) 現場訪問を行っている	[同上]
☐ (E) 経営陣とスタッフとの詳細なインタビューを実施している	[同上]
☐ (F) 詳細な外部ステークホルダー分析および／またはエンゲージメントを行っている	[同上]

☐ (G)他の主要なデュー・デリジェンス(例: 商業、会計、法務)と同様に、ESG デュー・デリジェンスの調査結果をすべての関連投資プロセス文書に組み入れいる	[同上]
☐ (H)他の主要なデュー・デリジェンス(例: 商業、会計、法務)と同様に、 投資委員会 (またはそれに相当する意思決定組織)がすべての ESG デュー・デリジェンス完了の最終的な責任を負っている	[同上]
☐ (I)その他 具体的に記入: _____ [自由記述(必須): スモール]	[同上]
☐ (J)潜在的なインフラストラクチャー投資について、重要な ESG 要因に対するデュー・デリジェンスは行っていない	

説明	
指標の目的	本指標の目的は、重要な ESG に関連するリスクに対するデュー・デリジェンスを投資前の段階で実行するために組織が使用するプロセスを把握することです。そのようなプロセスに対してどのような内部または外部リソースが割り当てられるか、および価値を創出する機会を特定するために重要な ESG 要因がどのように使用されるかについても評価されます。重大な ESG 関連のリスクを特定して評価するとともに、投資後の期間中に ESG の価値創出機会を特定して行動できるように、デュー・デリジェンスを十分に実行することは、優れた取り組みであると考えられます。ESG デュー・デリジェンスの最低基準は、一般に入手可能な情報に関する机上ベースでのリサーチ、および対象の業界とセクターへの ESG の影響に関する実践的知識の組み合わせとなる場合があります。
追加報告ガイダンス	「現場訪問を行っている」とは、投資を検討している資産またはポートフォリオ企業の運営現場を物理的に訪問することを意味します。 「第三者コンサルタント」とは、参加者が ESG 戦略の策定および／または実施の一部またはすべてを委託する組織または個人のことです。
他の基準の参照	GRESB 2022 インフラストラクチャー資産評価 (GRESB 2022 Infrastructure Asset Assessment) : RM2.1、RM2.2 および RM2.3
ロジック	
依存関係	[OO 21]
ゲートウェイ	該当なし

評価				
評価基準	本指標の 100 ポイントを、英字項目 (50 ポイント) と対象範囲 (50 ポイント) の回答オプションに配分します。最終スコアは、英字項目と番号が付された回答オプションの最も得点の高い 6 つの組み合わせに基づいて決定されます。			
	英字項目の回答オプション 50 ポイントの配点： A～F から 4 つ以上選択し、かつ G と H の両方を選択した場合は 50 ポイント。 A～F から 3 つ選択し、かつ G と H の両方を選択した場合は 33 ポイント。 A～H から 2 つ以上選択した場合は 16 ポイント。 A～I から 1 つ、または J を選択した場合は 0 ポイント。	および	対象範囲の回答オプション 50 ポイントの配点： A から H の回答選択につき、各オプションのポイント比率は以下のとおりです： すべて (1) の場合は 50/6 ポイント。 過半数 (2) の場合は 25/6 ポイント。 一部 (3) の場合は 12/6 ポイント。	その他の詳細： 「J」を選択すると、本指標は 0/100 ポイントになります。 評価は、回答オプションの最も高いスコアの組み合わせに基づいて行われます。
「その他」の採点	「その他 (I)」を選んだ場合、回答オプションが優れた取り組みに該当すると判断されれば、採点基準の対象とはなりません。			
乗数	High(高)			

第三者事業者の選定、指名、モニタリング

第三者事業者の選定プロセス[INF 6]

指標 ID	依存関係	OO 21、OO 30	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 6	ゲートウェイ	該当なし	第三者事業者の選定プロセス	1、4	コア

報告年度中に、すべての**第三者事業者の選定**において**重要な ESG 要因**をどのように含めましたか。

報告年度中に第三者事業者を選定しなかった場合、第三者事業者を選定した直近の年度について、最長で 5 年前まで報告してください。

☐ (A) 第三者事業者候補に、重要な ESG 要因への全体的なアプローチについて情報を求めた
☐ (B) 第三者事業者候補に、重要な ESG 要因の管理方法について実績と事例を求めた
☐ (C) 第三者事業者候補に、ステークホルダーに対するエンゲージメント・プロセスについて情報を求めた
☐ (D) 第三者事業者候補に、責任調達や請負業者の取り組み(役割、アプローチ、インセンティブなど)についての文書を求めた
☐ (E) その他
 具体的に記入: _____ [自由記述(必須): スモール]
☐ (F) 第三者事業者の選定に重要な ESG 要因を含めなかった

説明	
指標の目的	本指標の目的は、署名機関が自らの責任投資慣行に沿って、選定プロセス中に第三者事業者の実績と専門知識をどのように評価するかを理解することです。インフラストラクチャー事業を第三者事業者に外部委託する投資家にとって、その選定のアプローチにおいて重要な ESG 要因を考慮することは、優れた取り組みであると考えられます。 資産に関する日常的なオペレーションが第三者に委託されている場合が多いため、重要な ESG 要因を適切に管理するためには、適切な第三者事業者を選定して、その事業者との効果的な協働方法を理解することが不可欠です。第三者事業者の選定における優れた取り組みには、第三者事業者の全体的な ESG ポリシーのみならず、それらのポリシーを実行する深度と幅広さを理解することも含まれます。

追加報告ガイダンス	本セクションは、組織概要モジュールで、署名機関がインフラストラクチャー事業を第三者事業者に委託していることを報告している場合にのみ適用されます。	
	署名機関が一部のインフラストラクチャー資産の管理を社内で行い、他を委託している場合、管理を委託している資産についてのみ報告してください。	
他のリソース	第三者事業者に尋ねる質問については、 インフラストラクチャー投資家向け責任投資 DDQ (Responsible investment DDQ for real estate investors) を参照してください。このリソースは特にLP とインフラストラクチャーGP の選定を対象としています。	
他の基準の参照	GRESB 2022 インフラストラクチャー資産評価 (GRESB Infrastructure Asset Assessment) : SE2(管理:ステークホルダー・エンゲージメント)	
ロジック		
依存関係	[OO 21]、[OO 30]	
ゲートウェイ	該当なし	
評価		
評価基準	本指標全体で 100 ポイント。 A～D から 4 つ選択した場合は 100 ポイント。 A～D から 3 つ選択した場合は 75 ポイント。 A～D から 2 つ選択した場合は 50 ポイント。 A～D から 1 つ選択した場合は 25 ポイント。 E、F の場合は 0 ポイント。	その他の詳細: 「F」を選択すると、本指標は 0/100 ポイントになります。
「その他」の採点	「その他(E)」を選んだ場合、回答オプションが優れた取り組みに該当すると判断されれば、採点基準の対象とはなりません。	
乗数	High(高)	

第三者事業者の指名プロセス[INF 7]

指標 ID	依存関係	OO 21、OO 30	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 7	ゲートウェイ	該当なし	第三者事業者の指名プロセス	1、4	コア

現在の**第三者事業者**を**指名**するときに、**重要な ESG 要因**をどのように組み入れましたか。

報告年度中に署名機関が第三者事業者を選定しなかった場合、第三者事業者を選定した直近の年度について、最長で 5 年前まで報告してください。

☐ (A) 重要な ESG 要因をインフラストラクチャー資産管理のすべての関連要素に組み入れるための明確かつ詳細な期待値を設定した	[ドロップダウン・リスト] (1) すべての第三者事業者が対象 (2) 過半数の第三者事業者が対象 (3) 一部の第三者事業者が対象
☐ (B) 明確な ESG 報告要件を設定した	[同上]
☐ (C) 重要な ESG 要因に明確な目標を設定した	[同上]
☐ (D) 重要な ESG 要因の目標に関連するインセンティブを設定した	[同上]
☐ (E) その他 具体的に記入: _____ [自由記述(必須): スモール]	[同上]
☐ (F) 第三者事業者の指名に重要な ESG 要因を含めなかった	

説明				
指標の目的	本指標の目的は、署名機関が自らの責任投資慣行に沿って、第三者事業者との法的な合意に重要な ESG 要因をどのように組み入れているかを理解することです。インフラストラクチャー事業を第三者事業者に外部委託するインフラストラクチャー投資家にとって、その指名のアプローチにおいて重要な ESG 要因を考慮することは、優れた取り組みであると考えられます。			
	資産の日常的なオペレーションが第三者事業者に委託されている場合が多いため、投資家と第三者事業者が交わした法的合意に重要な ESG 要因を含めることは、後者による重要な ESG 要因の積極的な管理範囲と、前者による重要な ESG 要因の評価範囲の定義に役立ちます。			
追加報告ガイダンス	本セクションは、組織概要モジュールで、署名機関がインフラストラクチャー事業を第三者事業者に委託していることを報告している場合にのみ適用されます。			
	署名機関が一部のインフラストラクチャー資産の管理を社内で行い、他を委託している場合、管理を委託している資産についてのみ報告してください。			
	第三者インフラストラクチャー事業者について、過半数とは 50%以上を指し、一部とは 50%未満を指します。各オプションの対象範囲は、第三者事業者の数に基づく必要があります。			
他の基準の参照	GRESB 2022 インフラストラクチャー資産評価 (GRESB Infrastructure Asset Assessment) : SE2 (管理:ステークホルダー・エンゲージメント)			
ロジック				
依存関係	[OO 21]、[OO 30]			
ゲートウェイ	該当なし			
評価				
評価基準	本指標の 100 ポイントを、英字項目 (50 ポイント) と対象範囲 (50 ポイント) の回答オプションに配分します。最終スコアは、英字項目と番号が付された回答オプションの最も得点の高い 3 つの組み合わせに基づいて決定されます。			
	英字項目の回答オプション 50 ポイントの配点: A〜D から 3 つ以上選択した場合は 50 ポイント。ただし、D が選択されていることが 必須 。 A〜D から 2 つ選択した場合、 または A〜C から 3 つすべて選択した場合は 33 ポイント。 A〜D から 1 つ選択した場合は 16 ポイント。 E、F の場合は 0 ポイント。	および	対象範囲の回答オプション 50 ポイントの配点: A から D の回答選択につき、各オプションのポイント比率は以下のとおりです: すべて (1) の場合は 50/3 ポイント。 過半数 (2) の場合は 25/3 ポイント。 一部 (3) の場合は 12/3 ポイント。	その他の詳細: 「F」を選択すると、本指標は 0/100 ポイントになります。

「その他」の採点	「その他(E)」を選んだ場合、回答オプションが優れた取り組みに該当すると判断されれば、採点基準の対象とはなりません。
乗数	Moderate(中)

第三者事業者のモニタリング・プロセス[INF 8]

指標 ID	依存関係	OO 21、OO 30	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 8	ゲートウェイ	該当なし	第三者事業者のモニタリング・プロセス	1、4	コア
現在の 第三者事業者 を モニタリング するときに、 重要な ESG 要因 をどのように組み入れましたか。					
☐ (A) 重要な 環境要因 について、定量的および／または定性的目標のパフォーマンスをモニタリングしている			[ドロップダウン・リスト] (1) すべての第三者事業者が対象 (2) 過半数の第三者事業者が対象 (3) 一部の第三者事業者が対象		
☐ (B) 重要な 社会的要因 について、定量的および／または定性的目標のパフォーマンスをモニタリングしている			[同上]		
☐ (C) 重要な ガバナンス要因 について、定量的および／または定性的目標のパフォーマンスをモニタリングしている			[同上]		
☐ (D) 少なくとも年 1 回の正式な報告を要求している			[同上]		
☐ (E) 少なくとも年に 1 回、関連するすべてのステークホルダーと重要な ESG 要因に関して話し合っている			[同上]		
☐ (F) 重要な ESG 要因および／または重要な ESG 要因にリンクされている金銭的なインセンティブ構造における目標に対して、第三者事業者のパフォーマンス・レビューを実施している			[同上]		

☐ (G)内部および／または外部の担当者が、少なくとも年 1 回の現場訪問を行っている	[同上]
☐ (H)その他 具体的に記入: _____ [自由記述(必須):スモール]	[同上]
☐ (I)第三者事業者のモニタリングでは重要な ESG 要因を含めていない	

説明	
指標の目的	本指標の目的は、署名機関が自らの責任投資慣行に沿って、第三者事業者のパフォーマンス(およびパフォーマンス向上のために協働する方法)を検討するために使用する方法を理解することです。インフラストラクチャー事業を第三者事業者に外部委託するインフラストラクチャー投資家にとって、そのモニタリング・アプローチにおいて重要な ESG 要因を考慮することは、優れた取り組みであると考えられます。 資産の日常的なオペレーションは多くの場合、第三者事業者に委託されるため、重要な ESG 要因の適切な管理には、第三者事業者および資産の ESG パフォーマンスが投資家によってどのように評価およびモニタリングされるかを判断するための明確なプロセスを設定することが含まれます。
追加報告ガイダンス	本セクションは、組織概要(OO)モジュールで、署名機関がインフラストラクチャー事業を第三者事業者に委託していることを報告している場合にのみ適用されます。 署名機関が一部のインフラストラクチャー資産の管理を社内で行い、他を委託している場合、管理を委託している資産についてのみ報告してください。 第三者インフラストラクチャー事業者について、過半数とは 50%以上を指し、一部とは 50%未満を指します。各オプションの対象範囲は、第三者事業者の数に基づく必要があります。 「現場訪問を行っている」とは、投資を検討している資産またはポートフォリオ企業の運営現場を物理的に訪問することを意味します。
他の基準の参照	GRESB 2022 インフラストラクチャー資産評価(GRESB Infrastructure Asset Assessment):SE2(管理:ステークホルダー・エンゲージメント)
ロジック	
依存関係	[OO 21]、[OO 30]
ゲートウェイ	該当なし

評価				
評価基準	本指標の 100 ポイントを、英字項目 (50 ポイント) と対象範囲 (50 ポイント) の回答オプションに配分します。最終スコアは、英字項目と番号が付された回答オプションの最も得点の高い 5 つの組み合わせに基づいて決定されます。			
	英字項目の回答オプション 50 ポイントの配点: A~G から 5 つ以上選択した場合は 50 ポイント。ただし、A~C から 3 つがすべて選択されていることが必須。 A~G から 4 つ選択した場合は 33 ポイント。ただし、A~C から 2~3 つ選択されていることが必須。 A~G から 2~5 つ選択した場合は 16 ポイント。ただし、A~C から 1 つ以上が選択されている (または D~G から 2~4 つ選択されている) ことが必須。 A~H から 1 つ、または I を選択した場合は 0 ポイント。	および	対象範囲の回答オプション 50 ポイントの配点: A から G の回答選択につき、各オプションのポイント比率は以下のとおりです: すべて (1) の場合は 50/5 ポイント。 過半数 (2) の場合は 25/5 ポイント。 一部 (3) の場合は 12/5 ポイント。	その他の詳細: 「I」を選択すると、本指標は 0/100 ポイントになります。
「その他」の採点	「その他 (H)」を選んだ場合、回答オプションが優れた取り組みに該当すると判断されれば、採点基準の対象とはなりません。			
乗数	High (高)			

投資後

モニタリング [INF 9、INF 9.1、INF 10、INF 10.1、INF 11、INF 12、INF 13、INF 14、INF 14.1]

指標 ID	依存関係	OO 21	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 9	ゲートウェイ	INF 9.1	モニタリング	1	コア

報告年度中に、インフラストラクチャー投資全体にわたり、**重要な ESG 要因**の KPI を 1 件以上追跡しましたか。

運用資産 (AUM) の割合ではなく、インフラストラクチャー資産の数を対象としています。PRI では、資産を取得後、ESG データを利用できない期間があることを認識しています。重要な ESG 要因について、KPI の導入と追跡を意図している場合は「はい」と回答してください。

	これが適用されるインフラストラクチャー資産の割合:
☐ (A) はい、 環境要因 に対する KPI を追跡した	[ドロップダウン・リスト] (1) 0%超～10% (2) 10%超～50% (3) 50%超～75% (4) 75%超～95% (5) 95%超
☐ (B) はい、 社会要因 に対する KPI を追跡した	[同上]

□ (C) はい、 ガバナンス要因 に対する KPI を追跡した	[同上]
○ (D) インフラストラクチャー資産全体にわたり重要な ESG 要因について KPI を追跡しなかった	

説明				
指標の目的	本指標の目的は、デュー・デリジェンスの段階で特定された重要なリスクと機会に基づき、インフラストラクチャー資産の重要な ESG 要因の KPI を積極的にモニタリングすることによって、ESG パフォーマンスに対する組織のアプローチを把握することです。署名機関にとって、ESG 領域全体からの関連要因を、自らのまたは第三者事業者のパフォーマンスのモニタリングに含めることは、優れた取り組みであると考えられます。ESG 指標のパフォーマンスを継続的に収集することが、署名機関が資産の ESG パフォーマンスの理解やリスク管理、顧客報告を向上させる上で役立ちます。			
他のリソース	その他のガイダンスについては、 インフラストラクチャーへの責任投資に関する手引(Primer on Responsible Investment in Infrastructure) を参照してください。 ESG モニタリングの詳細は、 プライベート・エクイティにおける ESG モニタリング、報告、対話(ESG monitoring, reporting and dialogue in private equity) を参照してください。			
他の基準の参照	GRESB 2022 インフラストラクチャー資産評価(GRESB Infrastructure Asset Assessment) : RM3.1、RM3.2 および RM3.3			
ロジック				
依存関係	[OO 21]			
ゲートウェイ	[INF 9.1]			
評価				
評価基準	本指標の 100 ポイントを、英字項目(50 ポイント)と対象範囲(50 ポイント)の回答オプションに配分します。最終スコアは、英字項目と番号が付された回答オプションの最も得点の高い 3 つの組み合わせに基づいて決定されます。			
	英字項目の回答オプション 50 ポイントの配点： A〜C から 3 つすべて選択した場合は 50 ポイント。 A〜C から 2 つ選択した場合は 33 ポイント。 A〜C から 1 つ選択した場合は 16 ポイント。	および	対象範囲の回答オプション 50 ポイントの配点： A から C の回答選択につき、各オプションのポイント比率は以下のとおりです： (5)95%超の場合は 50/3 ポイント	その他の詳細： 「D」を選択すると、本指標は 0/100 ポイントになります。

	D の場合は 0 ポイント。		(4) 75%超～95%の場合は 40/3 ポイント (3) 50%超～75%の場合は 30/3 ポイント (2) 10%超～50%の場合は 20/3 ポイント (1) 0%超～10%の場合は 10/3 ポイント	
乗数	Moderate (中)			

指標 ID INF 9.1	依存関係	INF 9	サブセクション モニタリング	PRI 原則 1	指標種別 プラス 自主開示
	ゲートウェイ	該当なし			

報告年度中に、インフラストラクチャー投資全体にわたって追跡した重要な ESG 要因の KPI の事例を記載してください。

- (A) ESG KPI #1 _____ [自由記述(任意): スモール]
 (B) ESG KPI #2 _____ [自由記述(任意): スモール]
 (C) ESG KPI #3 _____ [自由記述(任意): スモール]
 (D) ESG KPI #4 _____ [自由記述(任意): スモール]
 (E) ESG KPI #5 _____ [自由記述(任意): スモール]
 (F) ESG KPI #6 _____ [自由記述(任意): スモール]
 (G) ESG KPI #7 _____ [自由記述(任意): スモール]
 (H) ESG KPI #8 _____ [自由記述(任意): スモール]
 (I) ESG KPI #9 _____ [自由記述(任意): スモール]
 (J) ESG KPI #10 _____ [自由記述(任意): スモール]

説明	
指標の目的	署名機関にとって、ESG 領域全体からの関連要因をパフォーマンスのモニタリングに含めることは、優れた取り組みであると考えられます。ESG 指標のパフォーマンスを継続的に収集することが、署名機関が資産の ESG パフォーマンスの理解やリスク管理、顧客報告を向上させる上で役立ちます。
他のリソース	その他のガイダンスについては、 インフラストラクチャーへの責任投資に関する手引 (Primer on Responsible Investment in Infrastructure) を参照してください。 ESG モニタリングの詳細は、 プライベート・エクイティにおける ESG モニタリング、報告、対話 (ESG monitoring, reporting and dialogue in private equity) を参照してください。

他の基準の参照	GRESB 2022 インフラストラクチャー資産評価 (GRESB 2022 Infrastructure Asset Assessment) : RM3.1、RM3.2 および RM3.3
ロジック	
依存関係	[INF 9]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

指標 ID	依存関係	OO 21、OO 30	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 10	ゲートウェイ	INF 10.1	モニタリング	1、2	コア
インフラストラクチャー投資の重要な ESG 要因の目標達成を支援するために、どのようなプロセスを構築していますか。					
インフラストラクチャー投資で少数持分を持つ投資家は、重要な ESG 要因が積極的に管理されるようにするために、協調投資の状況でエンゲージメントを行う資産、過半数の株主、および／または主要投資家に対してどのように影響を与えているかについて、オプションを選択してください。					
☐ (A) 運用レベルのベンチマークを使用して、セクターのパフォーマンスに対する資産のパフォーマンスを評価および分析している			[ドロップダウン・リスト] (1) すべてのインフラストラクチャー投資が対象 (2) 過半数のインフラストラクチャー投資が対象 (3) 一部のインフラストラクチャー投資が対象		
☐ (B) 継続評価および分析の指針となる、IFC パフォーマンス・スタンダード等の国際的なベスト・プラクティス基準を採用している。			[同上]		
☐ (C) ポートフォリオ全体にわたり、認証された環境および社会管理システムを実施している			[同上]		
☐ (D) 必要なシステムと手続きが確実に整備されるよう、十分な予算を策定している			[同上]		
☐ (E) 外部の検証サービスを採用して、パフォーマンス、システム、手続きを監査している			[同上]		
☐ (F) 第三者事業者に対する協働およびエンゲージメント行ってアクション・プランを策定している			[同上]		

□ (G)最低限の衛生安全基準を策定している	[同上]
□ (H)主要なすべてのステークホルダー(例:地方のコミュニティ、NGO、政府、エンドユーザー)に対するエンゲージメントを継続している	[同上]
□ (I)その他 具体的に記入: _____ [自由記述(必須):スモール]	[同上]
○ (J)インフラストラクチャー投資の重要な ESG 要因の目標達成を支援するためのプロセスを構築していない	

説明				
指標の目的	本指標の目的は、組織が重要な ESG 要因の目標達成のために実行しているプロセスとリソースの深度を知ることです。積極的に ESG パフォーマンスを管理するには、組織がさまざまな潜在的プロセスを導入し、十分なリソースの提供を確保しなければなりません。具体的なプロセスとリソースのレベルは資産の状況によって異なります。ただし、いずれの場合でも、すべてのインフラストラクチャー資産における重要な ESG 要因の目標を達成するために、これらのプロセスとリソースを定期的に評価し、有効性に応じて調整する必要があります。			
他のリソース	詳細は、 インフラストラクチャーへの責任投資に関する手引(Primer on Responsible Investment in Infrastructure) を参照してください。 その他のガイダンスについては、 BII(旧 CDC グループ)ESG ツールキット(BII (formerly CDC Group) ESG toolkit) を参照してください。			
ロジック				
依存関係	[OO 21]、[OO 30]			
ゲートウェイ	[INF 10.1]			
評価				
評価基準	本指標の 100 ポイントを、英字項目(50 ポイント)と対象範囲(50 ポイント)の回答オプションに配分します。最終スコアは、英字項目と番号が付された回答オプションの最も得点の高い 5 つの組み合わせに基づいて決定されます。			
	英字項目の回答オプション 50 ポイントの配点:	および	対象範囲の回答オプション 50 ポイントの配点:	その他の詳細:

	A～H から 5 つ以上選択した場合は 50 ポイント。 A～H から 4 つ選択した場合は 33 ポイント。 A～H から 2～3 つ選択した場合は 16 ポイント。 A～I から 1 つ、または J を選択した場合は 0 ポイント。	A から H の回答選択につき、各オプションのポイント比率は以下のとおりです： すべて(1)の場合は 50/5 ポイント。 過半数(2)の場合は 25/5 ポイント。 一部(3)の場合は 12/5 ポイント。	「J」を選択すると、本指標は 0/100 ポイントになります。
「その他」の採点	「その他 (I)」を選んだ場合、回答オプションが優れた取り組みに該当すると判断されれば、採点基準の対象とはなりません。		
乗数	High(高)		

指標 ID	依存関係	INF 10	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 10.1	ゲートウェイ	該当なし	モニタリング	1、2	プラス 自主開示

報告年度中に、**重要な ESG 要因**の目標達成を支援するために構築したプロセスについて、2 つまで説明してください。

インフラストラクチャー投資で少数持分を持つ投資家は、重要な ESG 要因が積極的に管理されるようにするために、協調投資の状況でエンゲージメントを行う資産、過半数の株主、および／または主要投資家に対してどのように影響を与えているかについて、オプションを選択してください。

(A) プロセス 1 _____ [自由記述(任意): ラージ]

(B) プロセス 2 _____ [自由記述(任意): ラージ]

説明	
指標の目的	本指標は、署名機関に対して、重要な ESG 要因の目標達成を支援するために用いたプロセスに関する興味深い、革新的または先進的な事例を詳しく説明する機会を提供します。そのため、署名機関は、重要な ESG のリスクと機会 の管理におけるさまざまな取り組みと経験を共有することができます。
追加報告ガイダンス	署名機関はこの機会を利用して、前の指標で選択したオプションについて説明してください。詳細には、特定のプロセスをなぜ、どのように選択したか、プロセス実施の責任を誰が負ったか、プロセスを適用したことによる成功や教訓などを含めることができます。
他のリソース	ガイダンスについては、 インフラストラクチャーへの責任投資に関する手引 (Primer on Responsible Investment in Infrastructure) を参照してください。
ロジック	
依存関係	[INF 11]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

標 ID INF 11	依存関係	OO 21	サブセクション モニタリング	PRI 原則 1、2	指標種別 コア
	ゲートウェイ	該当なし			

投資後、その投資の保有期間にわたり、重要な ESG リスクおよび価値を創出する ESG 機会をどのように管理していますか。

インフラストラクチャー投資で少数持分を持つ投資家は、重要な ESG 要因が積極的に管理されるようにするために、協調投資の状況でエンゲージメントを行う資産、過半数の株主、および／または主要投資家に対してどのように影響を与えているかについて、オプションを選択してください。

☐ (A) 投資前調査、デュー・デリジェンスおよび重要性の所見に基づき、資産特有の ESG アクション・プランを策定している	[ドロップダウン・リスト] (1) すべてのインフラストラクチャー投資が対象 (2) 過半数のインフラストラクチャー投資が対象 (3) 一部のインフラストラクチャー投資が対象
☐ (B) 少なくとも年に 1 回、パフォーマンスのモニタリング結果に基づき、ESG アクション・プランを定期的に調整している	[同上]
☐ (C) 自ら、または起用している外部アドバイザーが、具体的な ESG 価値創出機会 でインフラストラクチャー投資を支援している	[同上]
☐ (D) その他 具体的に記入: _____ [自由記述(必須): スモール]	[同上]
☐ (E) 投資後に重要な ESG のリスクと機会を管理していない	

説明

指標の目的	本指標の目的は、投資の保有期間中に価値を創出するために、組織がどのように重要な ESG 要因の管理を活用しているかを知ることです。投資家および／またはその第三者事業者にとって、投資の保有期間中に価値を創出するために、パフォーマンスの推移に応じて更新できる ESG アクション・プランを策定することは、優れた取り組みであると考えられます。			
	ESG のリスクと機会を継続的に再評価することで、投資ポートフォリオのパフォーマンスをより理解し、管理において継続的に改善すべき領域を特定する必要があります。これを構造的な方法で行うことにより、署名機関がポートフォリオ内やポートフォリオ間の ESG パフォーマンスの評価だけでなく、他の運用会社のパフォーマンスを評価することも可能になります。			
他のリソース	ガイダンスについては、 インフラストラクチャーへの責任投資に関する手引(Primer on Responsible Investment in Infrastructure) を参照してください。			
	詳細については、 ESG アクション・プランに関する BII(旧 CDC グループ)のガイダンス(BII (formerly CDC Group) guidance on ESG action plans) を参照してください。			
ロジック				
依存関係	[OO 21]			
ゲートウェイ	該当なし			
評価				
評価基準	本指標の 100 ポイントを、英字項目 (50 ポイント) と対象範囲 (50 ポイント) の回答オプションに配分します。最終スコアは、英字項目と番号が付された回答オプションの最も得点の高い 3 つの組み合わせに基づいて決定されます。			
	英字項目の回答オプション 50 ポイントの配点： A～C から 3 つ選択した場合は 50 ポイント。 A～C から 2 つ選択した場合は 33 ポイント。 A～C から 1 つ選択した場合は 16 ポイント。 D、E の場合は 0 ポイント。	および	対象範囲の回答オプション 50 ポイントの配点： A から C の回答選択につき、各オプションのポイント比率は以下のとおりです： すべて (1) の場合は 50/3 ポイント。 過半数 (2) の場合は 25/3 ポイント。 一部 (3) の場合は 12/3 ポイント。	その他の詳細： 「E」を選択すると、本指標は 0/100 ポイントになります。
「その他」の採点	「その他 (D)」を選んだ場合、回答オプションが優れた取り組みに該当すると判断されれば、採点基準の対象とはなりません。			
乗数	High(高)			

指標 ID INF 12	依存関係	OO 21	サブセクション モニタリング	PRI 原則 1、2	指標種別 プラス 自主開示
	ゲートウェイ	該当なし			

少数持分を保有しているインフラストラクチャー投資において、重要な ESG リスクが適切に対処されるようにする方法について説明してください。

[自由記述(任意): ラージ]

説明	
指標の目的	本指標は、少数持分を持つ投資家が、インフラストラクチャー投資において重要な ESG リスクが適切に対処されるように、他の投資家やパートナーとどのように協働しているかを説明する機会を提供します。少数持分を持つ投資家が ESG リスクの検討や管理に直接影響を与える立場(取締役会など)にない場合でも、他の投資家やパートナーと協働して ESG に関する共通のアジェンダやアプローチを策定し、アジェンダの実施に役立つ措置を可能な限り支援することは、優れた取り組みであると考えられます。
ロジック	
依存関係	[OO 21]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

指標 ID INF 13	依存関係	OO 21	サブセクション モニタリング	PRI 原則 2	指標種別 プラス 自主開示
	ゲートウェイ	該当なし			

投資期間中に ESG アクション・プランをどのように定義、実施、モニタリングしているか説明してください。

[自由記述(任意): ラージ]

説明	
指標の目的	本指標は、署名機関に対して、投資期間全体を通して実践している ESG アクション・プランの取り組み(価値創出やリスク管理など)を説明する機会を提供します。適切なシステムを設置して、継続的に課題を管理することが重要です。例えば、ESG パフォーマンスの改善方法を特定するために各資産に対してアクション・プランを策定することなどが含まれます。
他のリソース	ガイダンスについては、 インフラストラクチャーへの責任投資に関する手引(Primer on Responsible Investment in Infrastructure) を参照してください。 詳細については、ESG アクション・プランに関する BII(旧 CDC グループ)のガイダンス(BII (formerly CDC Group) guidance on ESG action plans) を参照してください。
ロジック	
依存関係	[OO 21]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

指標 ID	依存関係	OO 21	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 14	ゲートウェイ	INF 14.1	モニタリング	1、2	コア

どのようにして資産レベルでの十分な ESG 関連コンピタンス確保していますか。

インフラストラクチャー投資で少数持分を持つ投資家は、資産レベルでの十分な ESG 関連コンピタンスを確保するために、協調投資の状況でエンゲージメントを行う資産、過半数の株主、および／または主要投資家に対してどのように影響を与えているかについて、オプションを選択してください。

☐ (A) ESG 課題の責任を取締役に課している	[ドロップダウン・リスト] (1) すべてのインフラストラクチャー投資が対象 (2) 過半数のインフラストラクチャー投資が対象 (3) 一部のインフラストラクチャー投資が対象
☐ (B) 重要な ESG 課題は年 1 回以上取締役会で協議するよう徹底している	[同上]
☐ (C) 経営幹部レベルの管理者のみに、資産に関連する ESG の側面と管理に関するベスト・プラクティスについての研修を行っている	[同上]
☐ (D) 社員(経営幹部レベルの管理者を除く)に、資産に関連する ESG の側面と管理に関するベスト・プラクティスについての研修を行っている	[同上]
☐ (E) 外部の ESG 専門家(例: コンサルタントまたは監査人)を見つけることにより資産を支援している	[同上]
☐ (F) 資産全体にわたる優れた取り組みを共有している(例: 教育セッション、環境および社会的マネジメント・システムの導入)	[同上]

☐ (G) ESG パフォーマンスを改善するためのペナルティまたはインセンティブを経営陣の報酬制度に適用している	[同上]
☐ (H) その他 具体的に記入: _____ [自由記述(必須): スモール]	[同上]
☐ (I) 資産レベルでの十分な ESG 関連コンピタンスを確保していない	

説明				
指標の目的	本指標の目的は、署名機関が戦略、ポリシー、研修への取り組みを通して、資産レベルでの十分な ESG 関連のコンピタンスをどのように確保しているかを評価することです。すべてのインフラストラクチャー資産に関して、十分な ESG 関連のコンピタンスが資産レベルで存在することを確保すること(重要な ESG 要因に関して取締役会レベルで関心が持たれていることを含む)は、優れた取り組みであると考えられます。これらの取り組みを定期的にレビューし、パフォーマンスと全般的なニーズに応じて調整する必要があります。			
追加報告ガイダンス	本指標において、「外部の ESG 専門家」とは、コンサルタントまたはその他の署名機関の外部専門家による ESG に関する助言を指します。 「経営幹部レベル」とは、組織を管理する日常的な責任を負う個人からなるチームを意味します。経営幹部レベルのスタッフは、企業内で(英語では)senior management、executive management、executive leadership team、top management、upper management、higher management、または単に seniors という場合もあります。			
ロジック				
依存関係	[OO 21]			
ゲートウェイ	[INF 14.1]			
評価				
評価基準	本指標の 100 ポイントを、英字項目 (50 ポイント)と対象範囲 (50 ポイント) の回答オプションに配分します。最終スコアは、英字項目と番号が付された回答オプションの最も得点の高い 5 つの組み合わせに基づいて決定されます。			
	英字項目の回答オプション 50 ポイントの配点:	および	対象範囲の回答オプション 50 ポイントの配点:	その他の詳細: 「I」を選択すると、本指標は 0/100 ポイントになります。

	A～G から 5 つ以上選択した場合は 50 ポイント。ただし、A および B から 1 つ以上選択されていることが必須。 A～G から 4 つ選択した場合または C～G から 5 つ選択した場合は 33 ポイント。 A～G から 2～3 つ選択した場合は 16 ポイント。 A～H から 1 つ、または I を選択した場合は 0 ポイント。		A から G の回答選択につき、各オプションのポイント比率は以下のとおりです： すべて(1)の場合は 50/5 ポイント。 過半数(2)の場合は 25/5 ポイント。 一部(3)の場合は 12/5 ポイント。	
「その他」の採点	「その他(H)」を選んだ場合、回答オプションが優れた取り組みに該当すると判断されれば、採点基準の対象とはなりません。			
乗数	High(高)			

指標 ID INF 14.1	依存関係	INF 14	サブセクション モニタリング	PRI 原則 1、2	指標種別 プラス 自主開示
	ゲートウェイ	該当なし			

報告年度中に、ESG コンピタンス構築の資産レベルでの取り組みの一環として実施したイニシアティブについて、2 つまで説明してください。

署名機関はこの機会を利用して、前の指標で選択したオプションについて詳しく説明してください。

(A) イニシアティブ 1 _____ [自由記述(任意): ラージ]

(B) イニシアティブ 2 _____ [自由記述(任意): ラージ]

説明	
指標の目的	本指標は、署名機関に対して、ESG コンピタンス構築の取り組みにおいて署名機関が興味深い、革新的または先進的と考える事例を詳しく説明する機会を提供します。
追加報告ガイダンス	署名機関は、特定のプロセスが選択された経緯と理由、そのプロセスの実行責任者、プロセスを適用したことによる成功や教訓などの詳細を含めることができます。署名機関は、重要な ESG 要因が正当に配慮され、かつ ESG コンピタンスにおいて継続的な改善がなされることを確保するため、直接または第三者事業者を通じて、署名機関が資産に関与してどのような影響を及ぼすかについて強調することもできます。
ロジック	
依存関係	[INF 14]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

ステークホルダー・エンゲージメント[INF 15]

指標 ID	依存関係	OO 21	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 15	ゲートウェイ	該当なし	ステークホルダー・エンゲージメント	1、2	プラス 自主開示
潜在的な投資に対するデュー・デリジェンスと、既存の投資に対する継続的なモニタリングの両方において、どのようにして十分なステークホルダー・エンゲージメントが確実に実施されるようにしていますか。					
[自由記述(任意): ラージ]					

説明	
指標の目的	ステークホルダー・エンゲージメントは、特に地方のコミュニティ、現地のコミュニティ、エンド・ユーザー、非政府組織などとの関係に関連があるため、インフラストラクチャー・プロジェクトの特定と継続管理の根拠をなす柱であると考えられます。本指標は投資家に対して、ステークホルダー・エンゲージメントがインフラストラクチャー投資のために実施される方法を説明する機会を提供します。
追加報告ガイダンス	署名機関は、自らの組織や、組織の代理となる第三者事業者が、ESG 問題に関してステークホルダーとどのように関わっているかを説明できます。説明には、以下に関する議論が含まれる場合があります： - 署名機関がどのように関与するステークホルダーを選定するか - 署名機関がどのようにステークホルダーとコミュニケーションをとるか - 署名機関が、どのようにしてステークホルダーにインフラストラクチャー投資のサステナビリティ属性を確実に理解させるか - 署名機関とステークホルダー間で、特定の ESG 課題に取り組むためのパートナーシップ契約は整っているか - 署名機関がどのようにステークホルダー・エンゲージメント・プログラムの進捗を測定し、モニタリングしているか - 署名機関がどのようにプロジェクト・デベロッパーまたは第三者事業者などの他者のステークホルダー・エンゲージメントの実施方法を評価するか
他のリソース	その他のガイダンスについては、 ステークホルダー・エンゲージメントへの 5 段階アプローチ (Five-Step Approach to Stakeholder Engagement) を参照してください。 持続可能なインフラストラクチャー資産についてのその他のガイダンスについては、 持続可能なインフラストラクチャー投資の基盤整備 (Laying the foundations for sustainable infrastructure investing) を参照してください。
ロジック	

依存関係	[OO 21]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

エグジット[INF 16]

指標 ID	依存関係	OO 21	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 16	ゲートウェイ	該当なし	エグジット	4、6	コア
報告年度中に、貴組織は、インフラストラクチャー投資の潜在的な買い手とどのような責任投資情報を共有しましたか。					
☐ (A) 責任投資に対する当組織のコミットメント概要（例えば、当組織が PRI 署名機関であるということ）			[ドロップダウン・リスト] (1) すべてのインフラストラクチャー投資が対象 (2) 過半数のインフラストラクチャー投資が対象 (3) 一部のインフラストラクチャー投資が対象		
☐ (B) 当組織が従っている業界および資産クラスの基準の説明（例えば、TCFD、GRESB）			[同上]		
☐ (C) 当組織の 責任投資ポリシー （少なくとも、主要な側面と会社独自のアプローチの概要）			[同上]		
☐ (D) 当組織の ESG リスク 評価方法（組織内でおよび／または組織外の支援により取り扱った話題）			[同上]		
☐ (E) 資産またはポートフォリオ企業に関する自社の最新の ESG リスク評価の結果			[同上]		
☐ (F) 売却する資産またはポートフォリオ企業に関する主要な ESG パフォーマンス・データ			[同上]		

☐ (G) その他 具体的に記入: _____ [自由記述(必須): スモール]	[同上]
☐ (H) 報告年度中にインフラストラクチャー投資の潜在的な買い手と責任投資情報を共有していない	
☐ (I) 報告年度中に、販売プロセスがなかった(または販売プロセスを管理していなかった)ため、該当しない	

説明	
指標の目的	本指標の目的は、署名機関が ESG 関連情報を資産売却プロセスに含めているかどうかを把握することです。インフラストラクチャー投資に関する ESG 関連情報をエグジット前に潜在的な買い手に開示することにより、買い手が利用できる情報の網羅性を高め、売り手に代わって適切なスチュワードシップを示すことは、優れた取り組みであると考えられます。 資産の潜在的買い手に適切な ESG の取り組みの証拠を提供することにより、買い手は、潜在的な ESG のリスクと機会をより可視化できます。また、それによって、資産とその価値について情報に基づいた意思決定を行えるとともに、重要な ESG 要因の非開示に関する潜在的な法的または信用上の問題を回避することもできます。
他のリソース	ガイダンスについては、 インフラストラクチャーへの責任投資に関する手引(Primer on Responsible Investment in Infrastructure) を参照してください。
ロジック	
依存関係	[OO 21]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価基準	本指標の 100 ポイントを、英字項目(50 ポイント)と対象範囲(50 ポイント)の回答オプションに配分します。最終スコアは、英字項目と番号が付された回答オプションの最も得点の高い 4 つの組み合わせに基づいて決定されます。

	英字項目の回答オプション 50 ポイントの配点： A～F から 4 つ以上選択した場合は 50 ポイント。 A～F から 3 つ選択した場合は 33 ポイント。 A～F から 1～2 つ選択した場合は 16 ポイント。 G、H の場合は 0 ポイント。	および	対象範囲の回答オプション 50 ポイントの配点： A から F の回答選択につき、各オプションのポイント比率は以下のとおりです： すべて(1)の場合は 50/4 ポイント。 過半数(2)の場合は 25/4 ポイント。 一部(3)の場合は 12/4 ポイント。	その他の詳細： 「H」を選択すると、本指標は 0/100 ポイントになります。 「I」を選択すると、本指標のスコアは「該当なし」となります。 署名機関は、本指標のために減点されることはありません。
「その他」の採点	「その他(G)」を選んだ場合、回答オプションが優れた取り組みに該当すると判断されれば、採点基準の対象とはなりません。			
乗数	Moderate(中)			

ESG ポートフォリオ情報の開示[INF 17]

指標 ID	依存関係	OO 21	サブセクション	PRI 原則	指標種別
INF 17	ゲートウェイ	該当なし	ESG ポートフォリオ情報の開示	6	コア

報告年度中に、どのようにして投資家に重要な ESG 要因の目標と関連データを報告しましたか。

- ☐ (A) 一般公開されたサステナビリティ報告書により報告した
- ☐ (B) 投資家への公式な報告により全体として報告した
- ☐ (C) 投資家への公式な報告により資産レベルで報告した
- ☐ (D) リミテッド・パートナーの諮問委員会(またはそれに相当するもの)を通して報告した
- ☐ (E) 投資家とのデジタルまたは物理的なイベントまたは会議で報告した
- ☐ (F) 重大な ESG インシデントが発生した場合の報告プロセスを整備した
- ☐ (G) その他
具体的に記入: _____ [自由記述(必須): スモール]
- ☐ (H) 報告年度中に、投資家に重要な ESG 要因の目標と関連データを報告しなかった

説明	
指標の目的	本指標の目的は、インフラストラクチャー資産に関連する重要な ESG 要因の目標と関連データの伝達についての署名機関特有のアプローチを理解し、署名機関が責任投資慣行に関する情報をどれほど広く入手可能かを明示できるようにすることです。署名機関にとって、年に 1 回またはそれより頻繁に投資活動に関する情報を一般および投資家に開示することは、優れた取り組みであると考えられます。 プライベート・マーケットでの投資は、パブリック・マーケットほど透明性が高くありません。その結果、プライベート・マーケットの運用会社は、投資家に対して透明性を保ち、ESG 関連ポートフォリオの情報を積極的に報告する追加的な責任を負います。加えて、複数の国・地域では現在、運用会社に対して ESG 関連ポートフォリオの情報を顧客に報告するよう義務付ける規則を策定中です。
他の基準の参照	業界主導の標準化された ESG 指標セットの事例については、GRESB および ESG データ・コンバージェンス・プロジェクト(ESG Data Convergence Project)を参照してください。

ロジック		
依存関係	[OO 21]	
ゲートウェイ	該当なし	
評価		
評価基準	本指標全体で 100 ポイント。 A～F から 5 つ以上選択した場合は 100 ポイント。ただし、A が選択されていることが必須。 A～F から 4 つ選択した場合は 66 ポイント。ただし、A が選択されていることが必須。 A～F から 1～3 つ選択した場合は 33 ポイント。ただし、A が選択されている(または B～F から 2～5 つ選択されている)ことが必須。 B～G から 1 つ、または H を選択した場合は 0 ポイント。	その他の詳細: 「H」を選択すると、本指標は 0/100 ポイントになります。
「その他」の採点	「その他(G)」を選んだ場合、回答オプションが優れた取り組みに該当すると判断されれば、採点基準の対象とはなりません。	
乗数	Moderate(中)	